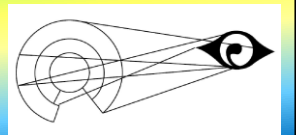


総会・所長研修会



平成28年4月22日（金）、北海道立教育研究所において、平成28年度北海道教育研究所連盟総会及び所長研修会を開催しました。

総会では、平成27年度の事業等についての報告及び平成28年度の事業計画をはじめ、協議事項等全ての議案が承認されました。

また、総会に引き続いて行われた所長研修会では、北海道教育委員会鶴羽 佳子委員の講演と、これからの教員研修の在り方及び道研連の各加盟機関と道研との連携の在り方について協議を行いました。



総会の様子

所長研修会：講演

演題 「これからの教員研修の在り方」
講師 北海道教育委員会委員 鶴羽 佳子

度北海道教育研究所連盟総会・所長



鶴羽委員による講演の様子

■ 学校訪問から見えること

- 教育委員会に入って5年。最初は現場のことがよく分からなかった。これではいけないと思い、進んで学校訪問に行くようにして、1年間で全ての管内の学校を回った。
- 最近はこの管内の学校でも、机上に必要なもの以外は置かないという取組を実施しているが、意味を理解した取組なのか、言われるからやる取組なのかでは成果が異なる。
- また、鉛筆を正しく持たせる指導に、1年間徹底して取り組んだ学校は、学力面での向上も見られ、徹底することの大切さを実感した事例として心に残っている。
- 学校訪問の中で、先生が意図したことと異なる発言をした子どもに対して、「そうじゃないんだよね。」と言う場面を見た。すると、その子どもは授業中に二度と発言しなかった。一方、「それは、おもしろい意見だね。」と一度受け止めて考えさせた先生の学級の子どもは、目を輝かせて授業に臨んでいた。
- 子どもはできないことで怒られることはあるが、やったことで褒められることは少ない。いつもやっていることでも先生が褒めると子どもは授業にのってくる。
- 学校訪問では、職員室で先生方に一言話す機会があれば、一人一人の先生にメッセージを伝えるようにしている。残念ながら課題のある先生もいるが、それを指導するのは管理職や指導主事だと思っている。自分は、先生方を褒めるようにしている。「学校訪問に来てもらってよかった。」と思う体験を、現場の先生方が感じてくれれば良いと思っている。
- できるだけ外部の人々が学校に関わり、先生方の刺激になってくれれば、先生方により影響を与えたいと思う。今年度も、いろいろな学校を訪問して、先生方を激励していきたいと思う。

所長研修会：協議

■ 協議の柱1：これからの教員研修の在り方

- 今日的な教育課題に対応できる研修を行っていかねばならない。そのためには、校内研修を充実させることを考えながら、各教育研究所・研修センターで教員研修の充実に取り組む必要がある。
- 校内研修を支援するため、各教育研究所・研修センターにおいて、学校や先生方が活用しやすいパッケージ資料、説明資料などを作成する取組が考えられる。
- 子どもが考えないのは、子どもに考えさせるような発問や板書になっていないことや教師の手立てが明確でないことに一つの原因がある。教育研究所・研修センターでは、このような課題の解決につながる研修講座の開設が必要である。

■ 協議の柱2：各加盟機関と道研との連携の在り方について

- 教員の指導力向上に向けて研修講座や講演会の一つの手立てとして有効であるが、講師の選定が課題になっている。
- 「管内研修センター等連携」研修講座（ミニ道研）や講師派遣は教員の指導力の向上に有効に機能している。受講者は研修内容を自校に還元し、教育活動の充実に生かしている。
- 教育大学では、授業でミニ道研の資料を活用したり、複式学級における学習指導の手引の作成に学校と協力して取り組んだりする連携を図っている。各教育研究所・研修センターの課題を、大学としてどのように支援していけるかについて今後検討を進めたい。